

輪島市復興まちづくり計画策定に係る住民懇談会（河井・鶴巣地区）  
結果概要

日 時 令和6年11月4日(月) 13:30～15:00

場 所 輪島消防署 2Fホール

出席者 住民側：26名

行政側：輪島市 坂口市長、中山副市長、小川教育長、中前総務部長、山本企画振興部長、池腰市民生活部長、刀祢健康福祉部長、永井産業部長、福尾建設部長、田川建設部技監、木下教育部長、上畠まちづくり推進課長

事務局：田中復興推進課長、一本松主幹

① 市長挨拶

(坂口市長)

- 三連休の最後の日に参加いただきありがとうございます。配付資料に基づいて、現在の復興まちづくり計画案を紹介させていただくので、皆様のご意見をお聞かせいただきたいと思います。
- 元日の震災及び9月の水害において、かつてない甚大な被害を受けた。大切な人、大切な物を失った。しかし復旧、復興の過程で新たな出会いも起きている。震災前よりも安心して住める魅力的なまちづくりに取り組んでまいりたい。

② 復興まちづくり計画の基本構想（案）等の説明

(市長より資料に沿って説明)

③ 意見交換・質疑応答

住 民：9月水害で田畑など被害を受けたが、聞くところによると大規模農家でも補助をもらえていない方がいるようだ。山間の惣領など小規模な農家でも補助を受けられるのか心配。

市 長：農地や農業用施設などはしっかり市民負担なしで支援する。小さい農家であっても補助が受けられるので心配ないようにしてほしい。

住 民：大野町第一仮設団地に住んでいるが、狭くて住宅としては生活するには狭いと色んな方から聞く。今後冬物を買っても置くところがない。増築は難しいが広さを考えてほしい。みなし仮設に避難されている方で、輪島に帰ってこない方もいる。これから冬を迎えるにあたり除雪の問題が出てくる。簡易除雪機の補助の制度はあるが、2年間限定とされる仮設住宅で除雪機を買うのも困難であり、対応をお願いしたい。

上畠まちづくり推進課長：仮設住宅が狭い件については、名前のとおり仮設であり、制度上の制限もあり最小限の整備しかしていただけないのでここは辛抱いただくほかない。公営住宅は、今の仮設の倍の広さのものを確保できる予定である。除雪については対応できるように進めており、仮設駐車場内も除雪できるように調整しているので安心いただきたい。

住 民：集会所の整備について、惣領町は国道249号が何度も通行止めになっている中、里帰りや観光客が惣領地内で閉じ込められることとなった。集会所にはそういう地区

外の人々も一時的に滞在した。重要なところは避難所の意味も兼ねた集会所の整備をお願いしたい。

市長：指定避難所は充実した設備で対応するが、集会所は応急的な避難対応として使い、その後は指定避難所に移っていただくことが望ましいとされている。そういうことも踏まえて集会所の再建に対しては支援する予定なので、また申請いただきたい。国道249号が短期間に2度にわたって通行止めとなったが、地すべり対策工事等もあわせて進めているのでそこはご安心をいただきたい。

住民：朝市の復興について。まちの再生の際に、マリンタウンに駐車場を作ってしまったら、以前と一緒に駅前から中央通りを観光客が素通りしてしまう。駅前に観光バスを止めて歩いて朝市まで行かれるようにしてはどうか。朝市地区だけが儲かればいい訳ではない。今はチャンスなので、まちの商店街全体が潤うように考えてほしい。

市長：まちなかを周遊できる駐車場の配置ということで伺った。ウォークブルシティという構想の中で、歩いて回遊し楽しめる環境の整備という考え方も用意されていたので、それらも受け継ぎながら再生に取り組んでいく。

住民：学校関係について。町野地区では、学校が支援拠点となっているので子どもたちは柳田小学校に通学している状況。その復帰の見通しなどはどうなっているか。また、先生も忙しくて困っているが、学校の先生が外部からサポートしてほしいようだが、それを訴えることもできない。声が出せない先生方もいるので対応をお願いしたい。

小川教育長：町野小学校は被災を受けたものの、泥出しなどで機能回復ができれば戻れることを考えているが、戻れる目処は今はっきり申し上げられない。また、復興支援拠点として東陽中学校に支所、商店、など色々な機能が集約されているため、戻れるようにするには総合的な判断の中で解決しないといけない状況である。卒業までに戻りたいと思うが見通しは立っていない。先生方へのサポートについては第三者が入ってサポートする等、一つ一つ丁寧に対応させて頂いている。

住民：9/21豪雨災害があったが、1/1の地震影響で土砂ダムが出来たのを確認していたのか、その上で見逃していたのかを聞きたい

市長：久手川地区含め多くの土砂ダムがあったのは確認していたが、応急復旧にとどまって十分な対応が間に合わなかった中で今回の豪雨災害が起きてしまった。そういった意味では震災と豪雨の複合災害である。

住民：地区の住民の話では、土砂が一気に来たそうで、こんなこと絶対がない（ひどい状況）だった。

10/30に中日新聞で、能登町で準半壊・一部損壊にも支援金が支出されるようになったそうだ。輪島市ではどう考えるか。

市長：地震と水害の被害がひどい状況であるなか、国の現在の制度では半壊以上は手厚い支援がある一方、準半壊以下の方へのほとんど支援はない状況。国・県にはさらなる支援をお願いしているが中々難しい。能登町でも被害が出たが、輪島市に比べて総数などで少ないがゆえに、町単独での支援を決められたと承知している。輪島市

では大変な被害を受けている中で全ての支援が難しく、義援金の一律配分で対応させていただいた。今後さらに支援をとというと、市財政的に持たないし、他の支援へ行き届かなくなる状況なので、国の制度以上の支援は難しい点をご理解いただきたい。

住 民：地震で準半壊、さらに水害で準半壊で合わせて半壊になった場合はどうなるのか？  
池腰市民生活部長：一部報道にあったが、準半壊と一部損壊で半壊になる「場合もある」ということである。地震と水害それぞれで被害を点数化して、合わせて半壊基準になったら半壊判定になるという形である。いずれにせよ市民に寄り添った判定になるようにはしていきたい。

住 民：安全な場所への居住地移転について。集落ごとの移転について、個人でも移転をしたいという希望は叶えられるか。擁壁の上に住んでいるが、地震で擁壁が割れ両親はそこで修理して住みたいとしていたが、水害後に私有地では何の制度もないと言われた。安全かどうか知りたく、直しても大丈夫かどうか等の基準を示してもらえないか。

上島まちづくり推進課長：私有地であっても、宅地の擁壁復旧については支援制度として50万以上の工事費に対して、1200万円までに5/6の支援がある。業者に相談してみしてほしい。また、罹災判定は準半壊だと30万円強までの応急修理制度が使える。耐震診断を受けて頂いて、耐震性を確保するための助成もあるなど、合わせ技が使えるので、それも含めて業者を通じてまちづくり推進課まで相談してほしい。移転については、個人がそれぞれの考えで土地をご自身で確保して移転することについては当然可能。資金面は融資制度を活用頂くしかないが、不明点をご相談を。

住 民：安全安心な場所への居住地の形成ということだが、今輪島市全体が安全なのかという疑問がある。稲舟だと避難指示区域などがあるが、輪島での危険レベルのようなものが目安としてあるのか。

市 長：稲舟町については地滑り地域であり避難指示が今も継続中。国のほうで地すべり対策等について精査しているところ。市全体については、一部孤立に近い集落もあるが、全体的には安全であるといえる。ただ、二つの災害を踏まえて言うと、日本全国でここが絶対安全と言える場所はないともいえる。降雨時の対応があったら早めに移動して頂くなどの対応をしていただくことを前提に、これまで以上に安心して住めるようにしたい。

住 民：当地区は元々水が溜まりやすい地区ではあった。今回の水害で泥が堆積してしまっ  
て、協力いただいて綺麗になった。公共土木施設の早期復旧という項目があるが、排水機能がまだ手つかずで、先般の雨でも水たまりが出来ている。この地区においてどういう対策を考えているか。

田川建設部技監：都市下水道の調査を終えたところであり、災害査定を受けた上で本復旧に移行するが、時期的にはまだ明確に申し上げられない。工事入れるようになったらお知らせさせていただく。

市 長：ご心配は理解する。なにしろ甚大な被害を広範囲に受けており国県の支援を受けて災害査定の上で方向性を確定していく。

住 民：再建を急いでいる住民もいるのでよろしく。

住 民：輪島市がどの程度安全な地域であるのか。地震時には津波の心配されていた方もいた。今後も、津波の発生に対しては心配をぬぐい切れない。もとより安全なところに、住んでいる方が安全に住めるような、例えば三井のあたりにでも新しい開発をしてもらって津波のないところで安心してすめるように考えてほしい。能登の復興は全国から注目されており、同じような半島でのお手本になるように力強い復興の形を示せたらよいのではないか。

市 長：震災と豪雨での災害を経験したが、他の全国含め「絶対安心」なところはないと思う。そこで輪島の復興は注目されており、復興のモデルになればと思う。津波については、市街地は1.5m上がったが、マリンタウンは津波浸水想定が40cmとされていたのでそこだけかさ上げした。輪島市街地は隆起したこともあり、津波の被害はほとんどなかったが、舳倉島は2.9mの津波被害をうけた。それをさらに越える津波がとは起こらないとは言えないが、東北ではそれまでの経験をもとに十数mの防潮堤を建ててもそれを乗り越えて津波がきた。東北の復興では山側に住宅を作ったが結局海側に住んだりする人もいるなど、中々難しい所もある。こと津波について、隆起のために心配は減るかと思うが、命をまもるために高台への避難なども含めて考える必要がある。朝市については元の場所で復興を考えていきたい。

住 民：自宅が準半壊で仮設住宅の入居基準にあてはまらないが、水害で裏の土砂崩れなどがあり安心して暮らすことができていない。周辺では自宅1軒だけなのだが、仮設入居の特別基準というのもあるようで、仮設入居希望は受理されたと連絡はあったが、その後連絡がなく、仮設完成まで分からないといわれた。結局一般基準なのか特別基準なのか、それを協議しているのか、それを市は把握しているのか。裏山の調査は誰がしているのか状況を教えてほしい。

中前総務部長：花山住宅については被害想定から御指摘の1軒は外れている。崩れる想定区域から外れているので土砂がかぶらないということになっているかと思う。状況は改めて確認しないといけない。

住 民：自宅に危険が及ぶかがどうかが不明であり、仮設入居は条件にあてはまらないので支援が切られたと認識している。

中前総務部長：仮に危ない状況になれば避難してほしいということで伝わっているはずかと思う。対策工事も進めることになっているが、改めて、確認してお伝えするようにする。

住 民：公費解体後、排水が悪く、水たまりができて沼地のような状態である。生活環境の悪化が懸念されている。頑張っって丁寧な仕事をして欲しい。

田川建設部技監：公費解体後に基礎撤去した土地で水が溜まっているということであるようなので、現地を確認後、処置を進める。個別に状況を教えてほしい。

以 上

